

マス・コミュニケーションに関する統計的研究

用水事業に対する態度調査 II

林 知己夫, 青山博次郎, 石田 正次, 西平 重喜
 多賀 保志, 堤 光 臣, 赤池 弘次, 田口 時夫
 植松 俊夫, 鈴木 達三

(1955年 11 月受付)

Statistical Research on Mass Communication

—An Attitude Survey for Irrigation Works II—

C. HAYASHI, H. AOYAMA, M. ISIDA, S. NISHIHARA, Y. TAGA,
 M. TSUTSUMI, H. AKAIKE, T. TAGUCHI, T. UEMATU, T. SUZUKI

(本報告は前号に続くものであり, 前号と併せて完結されたものとなる)

§ 5.8 郵便調査

この度の郵便調査は, 第1に調査員の訪問調査の実情を把握すること, 第2に世帯単位の調査に於て準サンプルをとることの可否を確かめること, この2点を狙つて行われた。この調査は一応別個に行われたので, 第1の部分は5.8.1~5.8.5の諸節で, 第2の部分は5.8.6節で述べることにする。

§ 5.8.1 調査の企画と実施

調査実施に伴う error の1種として調査員のインチキ (cheating—作文) があり, なかなか無視し得ない bias の原因となつている。我々はこの点についての検討を今まで2回行つた。(国民性の調査の予備テスト及び本テスト)。それらはいずれも, サンプルについてどの位の割合でインチキが行われたか, ということ精度よく推定するため, 調査可能であつたサンプル全体の中から, ランダムに郵便調査用のサンプルを抽出して来た。然しこの方法では, 調査員全体の中でインチキをした調査員がどの位の割合であるか, というような個々の調査員の行動を正確に捉えるには不都合である。その点を改善するには, 先ず調査員をサンプリングし, その調査員の受持ちサンプルをなるべく多く (できれば全部) 郵便用のサンプルにとる方がよい。(統計数理研究所彙報, Vol. 1, No. 2, 「ある Biased estimator を使用する時の注意」参照) 我々は此度の郵便調査の主目的を, このような調査員の cheating の実情を精細に捉えることにおき, そのような方針の下に企画を立てた。又今度は面接調査に際して「準サンプル」による代用を認めた結果, 調査不能の数は極めて少なかつたので (両総用水3%, 大利根用水5%), それについての追求調査は行ななかつた。

第I回目の質問状は例の如く, 往復葉書に5項目の質問を活版印刷したものを用い, 第2回, 第3回の問い合せには, 同じ質問を往復葉書にガリ版印刷したものを使用した。(5.8.1.1 図参照) 質問内容は主に調査員の訪問調査の状況をチェックするためのもので, 初めの2問は従来行つて来

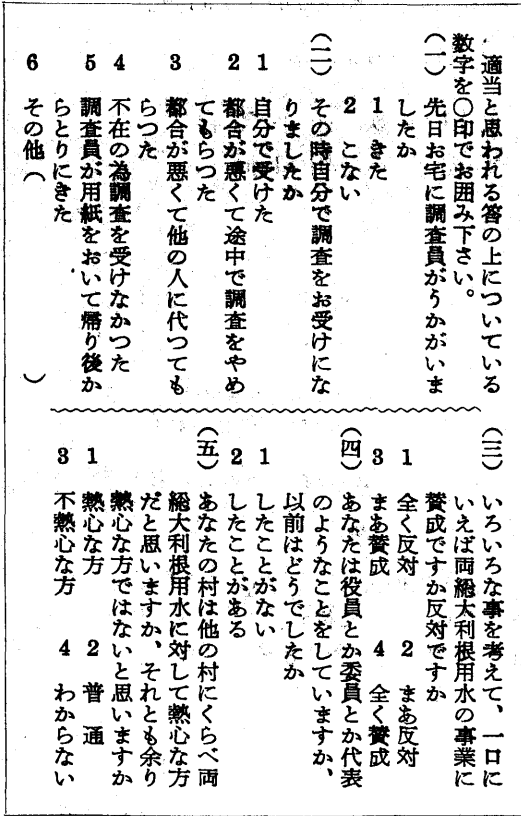
第 5.8.1-1 表

用水	面接用		郵便用		郵便サンプル数		返信あり	返信なし	持戻り	返信率
	調査員数	調査できたサンプル数	調査員数	サンプル数	一般	総代				
両 船	31	529	16	274	194②	78	247	27	1	90.5
大利根	23	390	12	205	155②	48	183	22	0	89.3
計	54	919	28	479	349④	126	430	49	1	89.9

$$\text{返信率} = \frac{(\text{返信数})}{(\text{発信数}) - (\text{持戻り数})} \times 100$$

○印で囲んだ数字はダブリのサンプル数

第 5.8.1-4 図



たものそのまま採用した。郵便用のサンプルとしては、費用の關係上、約500人（調査できたサンプルの約半分）をとることにした。先ず使用した全調査員を、両総用水と大利根用水用の2つに分け（それぞれ31人と23人）、その中から系統的に半数の調査員を抽出した。そしてそれらの調査員が調査したサンプル全部を、郵便調査用のサンプルとしたのである。その詳細は 5.8.1-1 表のとおり。

§ 5.8.2 調査の実施

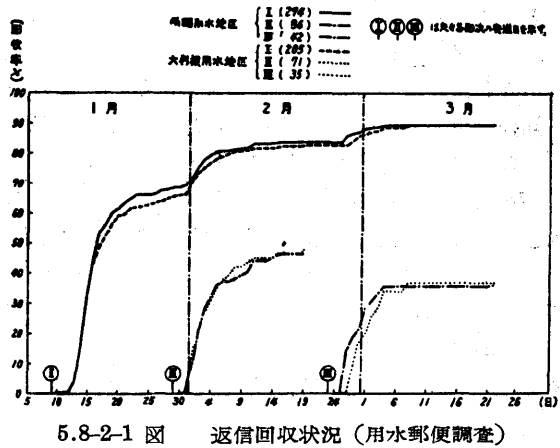
郵便調査は面接調査終了後、できるだけ速かに（1週間以内に）実施するのを原則とするが、この度は郵便物の輻輳する年末・年始を避けることを余儀なくされたため約2週間遅れて、1月9日に第1回の問合せ状を発送した。第2回の発送は1月29日第3回は3月23日で、調査票全部の回収が終つたのは3月22日であつた。その間の時間的経過を示せば、5.8.2-1 図のようになる。（発送数を100とした時の累積回収率を示す）

§ 5.8.3 調査員のインテキについて

一般サンプルと総代サンプルとを一緒にして、調査員別に集計してみると第 5.8.3-1~2 表のようになる。（これは第1回から第3回までの問合せを全部まとめた結果である）サンプルの返信率は両総、大利根両用水とも約 90% で、これは国民性調査の場合の郡部（東）に於ける返信率 90.3% とほぼ一致する。

さて返信のあつたものについて、〔問1〕「先日調査員がお宅に訪問しましたか」、〔問2〕「その時自分で調査をお受けになりましたか」、の2問についての回答をまとめて見ると、「自分でうけた」と答えたものは、(両) 88.9%、(大) 90.2% となつており、従つて調査されたサンプル中の約 90% については訪問調査が正しく行われたと考えられる。次に「都合が悪くて別の人に代つてもらつた」と答えたものは、(両) 3.6%、(大) 3.3% となつている。郵便の宛先は、いずれも調査を受けた本人（調査員が指定されたサンプルを調査したり、準サンプルを調査したりしているが、その何れの場合も）になつていたのであるから、上のように答えた 3~4% のサンプルについては次のような2通りの解釈が行われる。

(1) 実際は調査員が準サンプルを調査しながら、誤つて本サンプルを調査したように報告し



た。(準サンプルの記入洩れ)

(2) 上の場合とほぼ同じような状況であるが、故意に本サンプルを調査したように報告した。

(1) は報告の誤りであり、(2) はインチキの1種と考えられるが、實際上この2つを区別することは不可能であるから、まとめて「代人率」と呼び、故意のインチキとは見做さないことにする。

第 5.8.3-1 表 調査員のインチキについて (0) 両総用水

調査員 番号	発送 枚数	返なし	返あり	1 自分で	2 中止	3 代人	4 うけぬ	5 とめ おき	6 こない	7 その他	不明	計	grade
001	18	1	17	17								17	a
003	16	3	13	8		1	1		2		1	13	d
005	14	1	13	12	1							13	a
007	18	1	17	16			1					17	c
009	19	3	16	15		1						16	b
011	19	2	17	17								17	a
013	16	2	14	13		1						14	b
015	19	1	18	16		1			1			18	c
017	18	2	16	12		1			2	1		16	d
019	17	0	17	17								17	a
021	17	3	14	11		1			2			14	d
023	16	1	15	12				1	2			15	d
025	19	2	17	16		1						17	b
027	15	2	13	12		1						13	b
029	18	2	16	16								16	a
031	15	1	14	12		1			1			14	c
計	274	27	147	222	1	9	2	1	10	1	1	247	
	100.0	9.9	90.1	89.9	0.4	3.6	0.8	0.4	4.1	0.4	0.4	100.0	

grade { 無きず…………… a
「代人」のみ…………… b
インチキ①…………… c
インチキ②以上…………… d

第 5.8.3-2 表 (1) 大利根用水

調査員 番号	発送 枚数	返なし	返あり	1 自分で	2 中止	3 代人	4 うけぬ	5 とめ おき	6 こない	7 その他	不明	計	grade
301	15	1	14	14								14	a
303	14	1	13	10		2	1					13	c
305	18	1	17	17								17	a
307	19	1	18	16		1			1			18	c
309	19	3	16	10			5	1				16	d
311	18	6	12	12								12	a
313	18	2	16	15		1						16	b
315	16	4	12	10		1	1					12	c
317	18	2	16	18		1	2					16	d
319	16	0	16	16								16	a
321	18	0	18	17			1					18	e
323	16	1	15	15								15	a
計	205	22	183	165		6	10	1	1			183	
	100.0	10.7	89.3	90.2		3.3	5.5	0.5	0.5			100.0	

上の外に「調査員がこなかつた」、「都合が悪くて調査を中止した」、「調査をうけなかつた」、「とめおき」と答えたものが、(両) 5.7%, (大) 6.5% あつた。これらはいずれも調査員のインチキによるものと考えられる。国民性調査 pretest の場合インチキ率 6.6% と比べると、いずれもやや少ないが、これは上記「代人率」を別にしたためであろう。つまりサンプルについてのインチキ率は、大体どんな面接調査でも1割前後あると考えてよい。

次に調査員についてみると、(a) 調査結果の報告を正しく行つたものは28人中10人(35.7%), (b) 「代人」の報告を正確に行わなかつたもの5人(17.9%), (c) 受持サンプル中1人だけについてインチキを行つたもの7人(25.0%), (d) 2人以上についてインチキを行つたもの6人(21.4%)であつた。つまり正確に報告を行うものは全体の約1/3で、インチキを行う調査員は実に全体の1/2近くを占めることが判つた。まことに驚くべきことといえる。これを所属大学別に分けて見ると、T大学は(b), (c) class に多く(80%), (d) class は全くない。これに反して、C大学は(a) class 44.4%, (d) class 33.3%で、(b), (c) class は割に少い。つまりT大学生は無難な調査を行うのに反して、C大学生は熱心にやるものと、いい加減にやるものとが半々いることを示しており、それぞれの特徴をよく表わしている。(5.8.3-3 表参照)

第 5.8.3-3 表

学校	grade	a	b	c	d	計
T 大		20.0	40.0	40.0	0.0	100.0
		2	4	4	0	10
C 大		44.4	5.6	16.7	33.3	100.0
		8	1	3	6	18
計		35.7	17.9	25.0	21.4	100.0
		10	5	7	6	28

§ 5.8.4 地域別単純集計

訪問調査と比較するため、総代サンプルを除いて一般サンプルのみを両総、大根、干潟の3土地改良区に分けて集計した。

[i] 返信率と記名率 (5.8.4-1~3 表及び 5.8.4-1 図参照) 第Ⅰ回の問合せに対する返信率は各地区とも 65~70%, 第Ⅱ回は 40~50%, 第Ⅲ回は 30~40%, となつており、回を重ねる毎に systematic に返信率が落ちてくる。3回を総合した時の返信率(全返信数/全サンプル数)は、いずれも約 90% である。

次に記名率(記名数/返信数)についてみると、地域的に見ても、回次別に見ても、ほぼ安定しており(80~100%), 有意差はない。国民性調査の場合(80~90%)に比べても、大体同様な結果であり、返事を出す場合に自分の名を書くのを忘れるようなあわて者及び自分の名前を知られたがらない者が、約 10% 位はいつもいることを示す。

[ii] インチキ率 (5.8.4-4~6 表及び 5.8.4-2 図参照)

サンプルについてのインチキ率は両総地区 5.1%, 大根地区 6.0%, 干潟地区 9.7% となつており、干潟地区が最も高い。但し代人率をそれに加えると、各地区とも 10~11% となるのは面白い。つまり「準サンプル」による代用を認めため、インチキ率が減つたと考えられる訳である。なお上記 10~11% を準サンプルを認めない場合のインチキ率と考えると、国民性の調査の場合のそれと非常によく一致するから、ますますその感が深い。なお回次別にみると、両総、干潟、両地区では、第3回目の返信の中にインチキが著しく多いのが目立つ。これも前回にも見られた現象である。

[iii] (問 3) 「一口でいえば用水に賛成か」 (5.8.5-2 表及び 5.8.5-2 図参照)

「全く反対」と答えたものは、(両) 4.5%, (大) 6.0%, (干) 1.4% で、用水の利用が行われている干潟地区が最も少い。「まあ反対」と答えたものは、(両) 8.0%, (大) 14.9%, (干) 2.8%

一般サンプルのみ(除総代) 返信率(記名率)

第 5.8.4-1 表

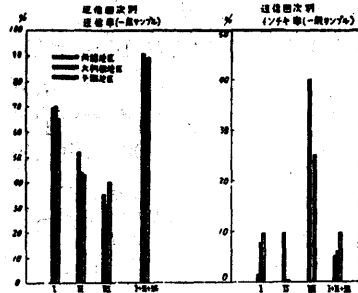
	返信 回数	返信			計 (発送数)	返信率	記名率
		あり	なし				
岡 総	I	135	60		195	69.3	91.1
	II	31	29		60	51.7	83.8
	III	10	19		29	34.5	100.0
	計	176	108		284	(90.3)	90.3

第 5.8.4-2 表

大 利 根	I	53	23		76	69.7	90.6
	II	10	13		23	43.5	100.0
	III	4	9		13	30.8	100.0
	計	67	45		112	(88.2)	92.5

第 5.8.4-3 表

干 潟	I	52	28		80	65.0	90.2
	II	12	16		28	42.9	83.3
	III	8	8		16	50.0	87.5
	計	72	52		124	(88.7)	88.7



5.8.4-1 図

5.8.4-2 図

一般サンプルのみ(除総代) インチキ率

第 5.8.4-4 表

	回数	インチキ								計	インチキ率	代人率
		自分で	中止	代人	受けぬ	5 留おき	6 こない	7 その他	8 不明			
岡 総	I	125	—	7	—	—	2	1	—	135	1.5	5.2
	II	26	—	2	1	—	2	—	—	31	9.7	6.5
	III	5	—	—	—	—	4	—	1	10	40.0	0.0
	計	156	—	9	1	—	8	1	1	176	5.1	5.1

第 5.8.4-5 表

大 利 根	I	46	—	3	3	—	1	—	—	53	7.6	7.6
	II	10	—	—	—	—	—	—	—	10	0.0	0.0
	III	4	—	—	—	—	—	—	—	4	0.0	0.0
	計	60	—	3	3	—	1	—	—	67	6.0	4.5

第 5.8.4-6 表

干 潟	I	46	—	1	4	1	—	—	—	52	9.6	1.9
	II	12	—	—	—	—	—	—	—	12	0.0	0.0
	III	6	—	—	2	—	—	—	—	8	25.0	0.0
	計	64	—	1	6	1	—	—	—	72	9.7	1.4

やはり干潟地区が最も少く、大利根地区の反対が可成り多いのが目立つ。「まあ賛成」と答えたもの(実際は中立乃至やや反対のもの)は、(岡) 44.3%、(大) 49.3%、(干) 56.9% となり、3地区とも大体同じような数字となる。「全く賛成」と答えたものは、(岡) 40.9%、(大) 25.4%、(干) 37.5% となり、岡総地区と干潟地区はほぼ同じ、大利根地区が最も少い。

[iv] 役員の経験の有無(5.8.5-3 表及び 5.8.5-3 図参照)

各地区とも「経験あり」と答えたものは、約 30% となっており、著しい差は見られない。

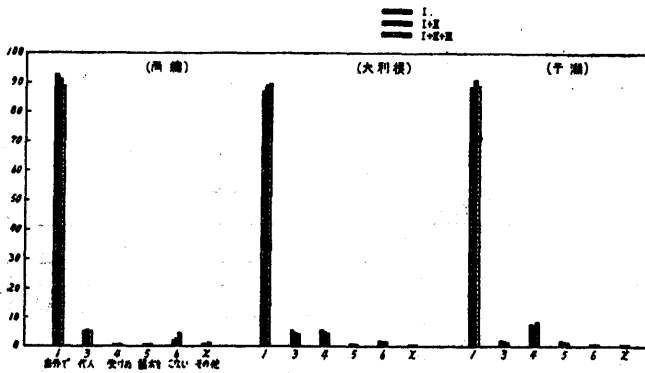
[v] 「あなたの村は用水に熱心な方ですか」(5.8.5-4 表及び 5.8.5-4 図参照)

「熱心な方」と答えたもの, (両) 34.7%, (大) 19.4%, (干) 29.2% で大利根地区が最も少い。また「普通」と答えたものは, (両) 47.2%, (大) 62.7%, (干) 56.9% である。「不熱心な方」と答えたものは, (両) 7.9%, (大) 13.4%, (干) 8.3% で大利根地区での反対的な気運が多いことが再び立証された。

§ 5.8.5 追及による bias の減少 (5.8.5-1~4 表及び 5.8.5-1~4 図参照)

第 5.8.5-1 表 [Q 1, 2] インチキ

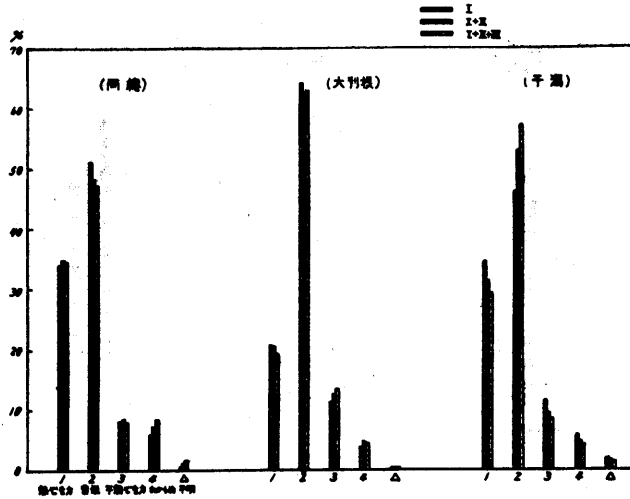
Q1, 2		1	2	3	4	5	6	x	△	計
		自分で	中止	代人	受けぬ	留おき	こない	その他	不明	
両 総	I	92.6 125	—	5.2 7	—	—	1.5 2	0.7 1	—	100.0 135
	I + II	91.0 151	—	5.4 9	0.6 1	—	2.4 4	0.6 1	—	100.0 166
	I + II + III	88.6 156	—	5.1 9	0.6 1	—	4.5 8	0.6 1	0.6 1	100.0 176
		86.7 46	—	5.7 3	5.7 3	—	1.9 1	—	—	100.0 53
大 利 根	I + II	88.8 56	—	4.8 3	4.8 3	—	1.6 1	—	—	100.0 63
	I + II + III	89.5 60	—	4.5 3	4.5 3	—	1.5 1	—	—	100.0 67
		88.5 46	—	1.9 1	7.7 4	1.9 1	—	—	—	100.0 52
干 潟	I + II	90.6 58	—	1.6 1	6.2 4	1.6 1	—	—	—	100.0 64
	I + II + III	88.9 64	—	1.4 1	8.3 6	1.4 1	—	—	—	100.0 72



5.8.5-1 図 [Q 1, 2] 調査状況

第 5.8.5-2 表 [Q 3] 一口で

Q 3		1	2	3	4	x	△	計
		全く反対	まあ反対	まあ賛成	全く賛成	その他	不明	
両 総	I	5.2 7	6.7 8	43.7 59	43.0 58	0.7 1	0.7 1	100.0 135
	I + II	4.8 9	7.8 13	44.6 74	41.6 69	0.6 1	0.6 1	100.0 166
	I + II + III	4.5 8	8.0 14	44.3 78	40.9 72	1.1 1	1.1 2	100.0 176
		5.7 3	18.9 10	43.4 23	28.2 15	1.9 1	1.9 1	100.0 53
大 利 根	I + II	4.7 3	15.9 10	47.6 30	27.0 17	1.6 1	3.2 2	100.0 63
	I + II + III	6.0 4	14.9 10	49.3 33	25.4 17	1.5 1	2.9 2	100.0 67
		1.9 1	1.9 1	55.8 29	38.5 20	—	1.9 1	100.0 52
干 潟	I + II	1.6 1	3.1 2	57.8 37	35.9 23	—	1.6 1	100.0 64
	I + II + III	1.4 1	2.8 2	56.9 41	37.5 27	—	1.4 1	100.0 72



5.8.5.4 図 [Q 5] 用水に熱心か

Reliability について (両端一般)
[Q 3] 一口で

面	郵					△	計
	1 全く反対	2 まあ反対	3 まあ賛成	4 全く賛成	α その他		
1	2	1	1	1			2.8 5
2	2	5	1	2	1		6.3 11
3	4	6	51	13		1	42.6 75
4		2	23	56	1		46.6 82
α			1				0.6 1
△			1			1	1.1 2
計	4.6 8	8.0 14	44.3 78	40.9 72	1.1 2	1.1 2	100.0 176

fr	対角	準対角		計	α及び△を除く サンプル数
		上	下		
	114	15	31	160	170
%	67.1	8.8	18.2	94.1	100.0

[Q 4] 役員の経験

面	郵			計
	1 ない	2 ある	△ 不明	
1	55	7	6	38.6 68
2	52	47	9	61.4 108
計	60.8 107	30.7 54	8.5 15	100.0 176

fr	対角	α及び△を除く サンプル数
		102
%	63.3	100.0

[Q 5] 用水に熱心か

面	郵					計
	1 熱心な方	2 普通	3 不熱心な方	4 わからない	△ 不明	
1	49	36	—	2	1	50.0 88
2	6	29	9	7	2	30.1 53
3	2	14	5	2	—	13.1 23
4	4	4	—	4	—	6.8 12
計	34.6 61	47.2 83	8.0 14	8.5 15	1.7 3	100.0 176

fr	対角	準対角		計	α及び△を除く サンプル数
		上	下		
	87	47	20	154	173
%	50.3	27.2	11.6	89.1	100.0

Reliability について (大根一般)

[Q 3] 一口で

I \ m	1	2	3	4	x	△	計
1	1	2					4.5 ₃
2		3	4				10.5 ₇
3	2	2	22	7	1	2	53.7 ₃₆
4		2	7	10			28.3 ₁₉
x	1						1.5 ₁
△		1					1.5 ₁
計	6.0 ₄	14.9 ₁₀	49.3 ₃₃	25.4 ₁₇	1.5 ₁	2.9 ₂	100.0 ₆₇
	対角	準対角		計	x及び△を除くサンプル数		
		上	下				
fr	36	13	9	58	62		
%	58.1	21.0	14.5	93.6	100.0		

[Q 4] 役員の経験

I \ m	1	2	△	計
1	24	4	3	46.3 ₃₁
2	14	16	6	53.7 ₃₆
計	56.7 ₃₈	29.9 ₂₀	13.4 ₉	100.0 ₆₇
	対角	x及び△を除くサンプル数		
fr	40	58		
%	69.0	100.0		

[Q 5] 用水に熱心か

I \ m	1	2	3	4	△	計
1	9	15	1	1		38.8 ₂₆
2	3	15	2	1		31.4 ₂₁
3	1	10	3			20.9 ₁₄
4		2	3	1		8.9 ₆
計	19.4 ₁₃	62.7 ₄₂	13.4 ₉	4.5 ₃	— ₀	100.0 ₆₇
	*対角	準対角		計	x及び△を除くサンプル数	
		上	下			
fr	28	17	16	61	67	
%	41.8	25.4	23.9	91.1	100.0	

Reliability について (千瀬一般)

[Q 3] 一口で

I \ m	1	2	3	4	△	計
1				2		2.8 ₂
2			4		1	6.9 ₅
3	1	1	28	13		59.7 ₄₃
4			9	12		29.2 ₂₁
x		1				1.4 ₁
計	1.4 ₁	2.8 ₂	56.9 ₄₁	37.5 ₂₇	1.4 ₁	100.0 ₇₂
	対角	準対角		計	x及び△を除くサンプル数	
		上	下			
fr	40	17	10	67	70	
%	57.2	24.3	14.3	95.8	100.0	

[Q 4] 役員の経験

I \ m	1	2	△	計
1	23	4	7	47.2 ₃₄
2	17	18	3	52.8 ₄₈
計	55.6 ₄₀	30.6 ₂₂	13.8 ₁₀	100.0 ₇₂
	対角	x及び△を除くサンプル数		
fr	41	62		
%	66.2	100.0		

〔Q 5〕 用水に熱心か

I	m					計
	1	2	3	4	△	
1	17	14		1		44.5 32
2	3	16	4	1		33.3 24
3		8	2	1		15.3 11
4	1	3			1	6.9 5
計	29.2 21	56.9 41	8.3 6	4.2 3	1.4 1	100.0 72
	対角	準対角		計	△印を除く サンプル数	
		上	下			
fr	35	19	11	65	71	
%	49.3	26.8	15.5	91.6	100.0	

5.8.4「地域別の単純集計」の〔i〕で述べたように、第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ回の問合せ状に対する返信率は、それぞれ65~70%、40~50%、30~40%となつてゐるが、第Ⅱ回目は第Ⅰ回目の、第Ⅲ回目は第Ⅱ回目の調査不能サンプルに対する追及調査と考えられる。つまり追及をできるだけ行うことが、調査不能による歪み(bias)を少なくする上に大切であるけれども、これを全く0にすることは難しいから、最終的にどれ位のbiasが残つてゐるかを確かめてみよう。例えば第Ⅰ回から第Ⅲ回までの返信率をそれぞれ、70%、50%、40%とすれば、第Ⅰ回だけの回答のみによつて集計する時は、不能サンプル30%を除いた結果を出すことになり、第Ⅱ回までの回答を併せれば、全サンプルの85%の回答について集計することになる。更に第Ⅲ回も含めれば、全体の91%についての結論を得ることになる。それでもなお9%のサンプルの回答を逃がしている訳だから、更に第Ⅳ回、第Ⅴ回、…の追及を行つて行けば、より精密な推定が出来ると考えられる。そこで各回次毎に累積した結果の分布を見た時、そこに特別な傾向が表われるかどうか、ということが問題となる。(例えばある質問に対する肯定的な回答の%が、回を重ねる毎に大きくなるといつたような)。そこで次に各質問別にその傾向の有無を眺めて行くことにする。

〔問1, 2〕 調査状況——両総地区では、「自分でうけた」と答える者が次第に減少し、「調査員がこない」と答える者が漸増する傾向を見せる。両者とも第Ⅰ回と第Ⅲ回の%の差は約4%だから、更に徹底的に追及すれば、biasを更に4~5%減少させ得ると考えられる。大和地区は、両総地区と反対の傾向を示すが、動きは小さいから、biasの程度は極く僅かと考えられる。干潟地区は一定の傾向を示さない。つまりbiasは殆んどないと考えられる。(5.8.5-1 図)

〔問3〕「一口でいえば……」——両総地区では特に傾向なし。大和地区では、「まあ反対」が減少の傾向を、「まあ賛成」は増加の傾向を著しく示す。最終的に残つてゐるbiasの大きさは前者で1~2%、後者で2~3%と推定される。干潟地区では傾向はない。(5.8.5-2 図参照)

〔問4〕 役員の経験の有無——各地区とも何等の傾向も見られない。(5.8.5-3 図参照)

〔問5〕「用水に熱心か」——両総地区では「普通」という答が減少、「わからぬ」と「不明」が増加の傾向をみせる。然し何れも最終的のbiasは1~2%とみられる。大和地区では「熱心な方」が減少、「不熱心」な方が増加していく。これもbiasの程度は1~2%位。干潟地区では「普通」が回を追うにつれて、著しく増加する反面、「熱心の方」を始めとして、他の答が減少していく。今まで述べた事で最もはつきりした傾向、従つてbiasの存在が認められる。最終的に残つてゐるbiasの大きさは、「普通」で4~5%、その他で2~3%と見てよからう(5.8.5-4 図参照)

以上を通観するに、特殊な場合を除き bias の絶対量は極めて小さく、大きな場合でも 5~6% 位と考えられる。従つて追及は Ⅲ 回まで行えば、傾向及び bias の大きさが掴めるから、十分であるといえよう。但し調査員のインチキについては、Ⅲ 回まで追及しても相対誤差がなお 0.5 以上になる場合には、十分とはいえない。更に追及する必要があると考えられる。要はその場合場合に依りて、追及の度数を定めるのが良い。

§ 5.8.6 準サンプルの信頼度調査

今度の調査では、原則として世帯主をサンプルにとることにしたが、もし世帯主が不在その他の事故で調査不能な場合、その世帯の中で世帯主の代りになり得る人(妻や長男等)を調査してもよいことにした。このサンプルの代りとして調査を受けた人を、以下“準サンプル”と呼ぶことにする。

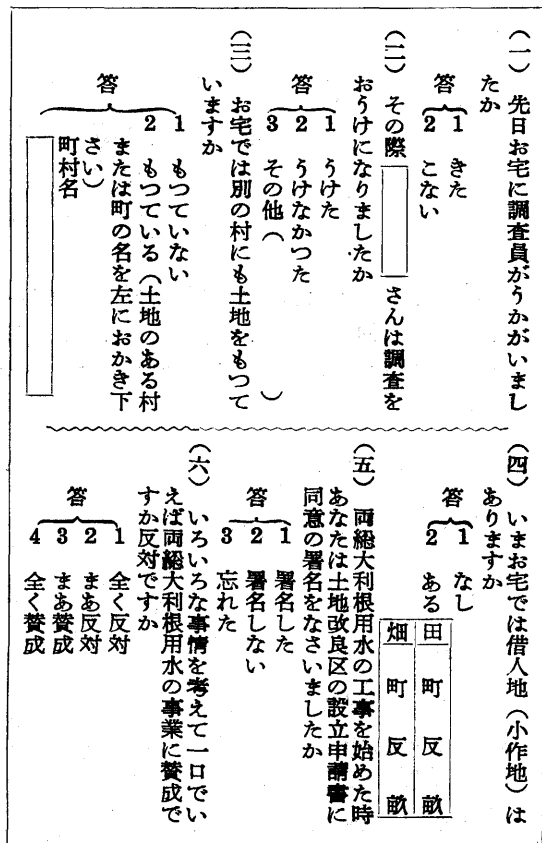
さて準サンプルのとり方等は、一切調査員の判断にまかせたので、その妥当性が問題となる。そこで調査終了後、全調査員の半数をランダムにえらび、それらの調査員が受持つたサンプルの中で、準サンプルについて面接調査が行われたものを拾い出し、数個の項目を印刷した往復葉書をサンプル本人宛に発送して回答を求めた。この結果を面接調査時における準サンプルの回答と比較することにより、準サンプル調査の妥当性を検討してみた。以下その詳細を述べることにする。

第Ⅰ回目の問合せに対する返信率は、両総地区で 52.2%、大利根、干潟地区で 42.9% で、ますます普通であるが、集計するには未だ不十分であるから、返信を寄越さぬ人に対して更に第Ⅱ回目の問合せを出した。第Ⅰ回と第Ⅱ回の問合せに対する結果を総合すると両総地区の返信率は 82.7%、大利根、干潟地区は 59.1% となる。そこで返信を寄越した 32 人を分類してみると(両総・大利根・干潟を総合して)、無記名 8 (25.0%)、本サンプル 14 (43.8%)、準サンプル 7 (21.9%)、別人 3 (9.3%) となる。つまり無記名の 8 人を除くと、本サンプル(宛名の本人)からの返信は約 60% あるが、間違えて準サンプル又はそれ以外の別人から返信がきたものはそれぞれ約 30, 10% となる。つまりこのような調査を行うと、約 40% の間違つた返信があることになる。

さてこの調査では、準サンプルと本サンプルとの回答の喰違いの度合を検討するのが目的であるから、本サンプルの返信(14人)のみを抜き出して、面接調査時の準サンプルの回答と対照すべきであらう。但しこの 14 人の本サンプルの中で、“調査をうけなかつた”と答えたものが 2 人あつた。これは調査員のインチキによるものと判断されるから、集計の際に除くことにした。(サンプルについてのインチキ率は約 6%)

なおこの結果から喰違いの度合(又は一致の度合)をみる時、当然面接と郵便による調査方法の

第 5.8.6-1 図



“調査をうけなかつた”と答えたものが 2 人あつた。これは調査員のインチキによるものと判断されるから、集計の際に除くことにした。(サンプルについてのインチキ率は約 6%)

[i] 返信率

第5.8.6-1表

地域	結果 回次	発送枚数	返信なし	持戻り	返信あり	返信あり (内訳)				返信率
						本サンプル	準サンプル	別人	無記名	
岡 総	I	23	11	0	12	4	2	0	5	52.2
	II	11	4	0	7	2	2	1	2	63.6
	総合	23	4	0	19	6	4	1	8	82.7
大 千 利 根 瀧	I	22	12	1	9	5	2	2	0	42.9
	II	13	9	0	4	3	1	0	0	30.8
	総合	22	9	0	13	8	3	2	0	59.1
計	I	45	23	1	21	9	4	2	6	47.8
	II	24	13	0	11	5	3	1	2	45.9
	総合	45	13	0	32	14	7	3	8	71.2

違いも考慮に入れなければならないから、参考までに準サンプルについての面接及び郵便の回答の比較も行ってみた。(準サンプル7人について)但しいずれの場合もサンプル数が少ないから、傾向によつて判断するより致し方がない。問3から問6までについて一致度をみると、準サンプルと本サンプルとの場合で60~100%同じ準サンプルの場合では70~100%となつている。(5.8.6-2表から5表まで参照)

第5.8.6-2表 回答の一致度について (%)

サンプルの組合せ	Q 3 所有地	Q 4 小作地	Q 6 一口で	Q 4 (a) 田	Q 4 (b) 畑
準サンプルと本サンプル	100.0	75.0	58.3	60.0	75.0
同じ準サンプル	100.0	100.0	71.4	100.0	71.3

さて同じ準サンプルについての回答の一致度(70~100%)をみるに、これは従来行つて来た「郵便調査の信頼度(面接と郵便の一致度)」と殆ど同じような結果が出ている。但し意見についての質問(Q 6)よりも、所有地、小作地についての質問に対する回答の方が、一致度がよくなつていることに注意しよう。

第5.8.6-3表 Q 3 土地をもつか

郵(本) 面(準)	1 もつて いない	2 もつ	計
1	9	0	9
2	0	3	3
計	9	3	12

一致率 100.0

第5.8.6-3'表 Q 3 土地

郵(準) 面(準)	1 もつて いない	2 もつ	計
1	5	0	5
2	0	2	2
計	5	2	7

一致率 100.0

第5.8.6-4表 Q 4 小作地

郵(本) 面(準)	1 なし	2 ある	計
1	3	3	6
2	0	6	6
計	3	9	12

一致率 75.0

第5.8.6-4'表 Q 4 小作地

郵(準) 面(準)	1 なし	2 ある	計
1	1	0	1
2	0	6	6
計	1	6	7

一致率 100.0

第 5.9.6-5 表 Q 6

郵(本) 面(準)	1 全く反対	2 まあ反対	3 まあ賛成	4 全く賛成	わかぬら	計
1						0
2		1				1
3			3	2	1	6
4			1	3		4
α 中立				1		1
計	0	1	4	6	1	12

一致率 58.3 %
(83.3 %) ← 賛成と反対に分けた時

第 5.8.6-5' 表 Q 6

郵(本) 面(準)	1 全く反対	2 まあ反対	3 まあ賛成	4 全く賛成	計
1					0
2					0
3		1	5		6
4			1		1
計	0	1	6	0	7

一致率 71.4 %
(85.7 %)

第 5.8.6-6 表 Q 4 小作地(田) 単位(反)

郵(本) 面(準)	0	0.1~0.5	0.6~1.0	1.1~1.5	1.6~2.0	2.1~2.5	4.1~4.5	計
0	5	1	1				1	8
0.1~0.5		1						1
0.6~1.0		1			1			2
1.1~1.5				1				1
1.6~2.0								0
2.1~2.5								0
5.1~5.5								0
計	5	3	1	1	1	0	1	12

一致率 60 %

第 5.8.6-6' 表

郵(本) 面(準)	0	0.1~0.5	0.6~1.0	1.1~1.5	1.6~2.0	2.6~3.0	5.1~5.5	計
0	2							2
0.1~0.5		1						1
0.6~1.0								0
1.1~1.5								0
1.6~2.0					1			1
2.6~3.0						2		2
5.1~5.5							1	1
計	2	1	0	0	1	2	1	7

一致率 100.0 %

第 5.8.6-7 表 小作地 (畑) 単位 (反)

郵(本) 面(準)	0	0.1~0.5	0.6~1.0	1.1~1.5	1.6~2.0	2.1~2.5	計
0	7	1					8
0.1~0.5							0
0.6~1.0	1		1	1			3
1.1~1.5							0
1.6~2.0						1	1
2.1~2.5							0
計	8	1	1	1	0	1	12

一致率 75 %

第 5.8.6-7 表

郵(準) 面(準)	0	0.1~0.5	0.6~1.0	1.1~1.5	1.6~2.0	2.1~2.5	計
0	3				1		4
0.1~0.5	1						1
0.6~1.0							0
1.6~1.5				1			1
1.6~2.0					1		1
2.1~2.5							0
計	4	0	0	1	2	0	7

一致率 71.3 %

さて準サンプルと本サンプルとの回答一致度は、いずれも上に述べた同じ準サンプルについての場合よりも少し悪くなっている。これは全く当然な結果であるが（面接と郵便とで回答が違っているのだから）、その差は案外小さいこと、及びQ6の回答についての一致度がやはり一番悪いのに気づくであろう。これは特に重要な事柄であり、次のような結論に導かれる。

先ず第一に準サンプルと本サンプルの回答を比較する場合、調査方法の差（面接と郵便）を考慮に入れるべきことは当然だが、そうした時両者の一致度はかなり高いと考えられる。特に所有地・小作地等については非常に良いといつて差し支えない。つまり意見についての調査には、代人（準サンプル）ではある程度のズレが出るのは止むを得ないが、財産等の経済面、生活面の実態調査では殆ど誤差が出ないといつてよい。但し細かい数字的なことになれば、ある程度のズレが生ずるのはやむをえない。（例えばQ4小作地の田、畑の面積について関連表を作ってみると5.8.6-6及び7表のようになる。）

§ 5.9 新聞・ピラなどの効果

§ 5.9.1 概 要

マス・コミュニケーションの研究において、マス・コンの効果 (effect) は一つの大きい問題であるが、たまたまこの地方でこれから述べるような機会があつたので、一種のマス・コンの効果の調査をおこなつた。

この場合のマス・コンの効果というのは、むしろこの地方に関連のある内容をもつマス・コンとの接触 (contact) 状況という方がよいかもしれない。

ここではつぎのような問題を扱つてみた。

1° どの新聞を読んでいるか。

2° 用水事業について、県民の時間に、つぎのような放送をしてもらつた。この放送を聞いたか

どうか、またその影響。

用水についての放送

NHK 第一放送 昭和28年12月25日 16時0分から15分間

放送内容

- 「みなさんこんにちわ、県民の時間でございます (音楽)
今日は千葉県のみなさまにお便りと、かるい音楽をお送りいたします。」 (音楽)
- 米の供出の話
40万石の割当てを完納し、更に20万石の愛県供出運動を行う。これには宝くじがついている。
- 千葉県貯蓄推進委員会
3月から始めて、10月に500億の目標を達成した。この金を千円札にしてならべると千葉県のまわりを……。
- 春にとれる「たけのこ」を電熱を利用して冬にとれるようにする話。
一の宮(長生郡)の林業指導所
- レコード「ラ・パロマ」
- 「ラ・パロマ」でした。それではお知らせを続けましょう。
「こんどは用水工事について土地改良区から組合員の皆さんへのお知らせでございます。ただいま、千葉県では、土地改良のために大利根用水、両総用水などの非常に大規模な用水工事が各地で行われております。

このような事業は国や県の多額の援助と皆さまがたの御協力によつて、運営されていくものですが、これらの工事を少しでも早く完成して、用排水路を食糧増産のために十分に活用していきたいと思ひます。

皆様は土地改良区にお収めになる組合費はこのような目的に使われるものですから、組合員の皆さんは期限内に組合費を納入されるようお願いいたします。

産業経済新聞

大評判の「サンケイ」が
空から御挨拶

おなじみの「サンケイ」は皆様の御支援によりましてますます躍進をとげ「明るく楽しい」隔々まですぐ役に立つ紙面は俄然評判をよんで毎日増刷に増刷を重ねております。もしまだ「サンケイ」を御覧にならない方がありましたら今すぐ近くの専売所へ購読を御申込み下さい。その上「サンケイ」は創刊二十周年記念を迎え、月極の愛読者へ特等現金百万円六本、一等電建住宅十八戸以下十等まで空くじなしの三重抽選という画期的な記念第二回豪華大プレゼントを洩れなく贈呈しております。何卒一層の御愛読を御願ひいたします

(毎日八頁月極二百円)

東京 産業経済新聞社 大阪

表

創刊二十周年記念
第二回豪華プレゼント

本社は創刊二十周年記念の第二回豪華プレゼントを十一月から三ヶ月以上の継続愛読者へ洩れなく贈呈いたします。この豪華プレゼントは画期的な三重抽選で内容は次のとおりです。

◇本社機噐圖書品費用運動選定賞◇

- 特等 百万円(現金) 六本 六等 ミリオン毛糸(ポンド) 二千本
 - 一等 日本電建住宅(日本電建) 十八本 七等 置時計(精工舎) 三千本
 - 二等 キヤノン・カメラE1D型 八等 化粧品セット(ワテナ) 五千本
 - 三等 ポータブル電着(ゼネラル) 九等 ビニールテーブルクロス 三万本
 - 四等 ミシン(蛇ノ目・リツカー) 十等 玉ノ肌化粧品(三ヶ入) 三万本
 - 五等 服地ミリオンテックス 二百四十本 等外 美麗色紙(安田製薬画伯) 三十万本
- (大同毛織) 五百本 洩れなく贈呈

裏

用水工事について土地改良区からのお願いをお伝え致しました。」

7. 佐久良招魂祭が戦没者納骨堂で19日, 20日に行われる。そのせつ, 佐久良第一小学校で農産物品評会が行われる。

8. NHK歳末助け合い運動の話

9. 全国第7回ノド自慢千葉予選のおしらせ。

横芝小学校1月9日。姉ヶ崎10日。大滝15日。津田沼17日。決勝 船橋高等学校24日。

3° 飛行機のピラとの接触。これは前頁のようなピラである。

4° 千葉県の各地で県教委主催, 毎日新聞後援の移動動物園がひらかれた。

5° 昭和28年11月26日午前2時に房総沖大地震があつた。怪光が館山で見えたという記事が, 毎日新聞の11月26日夕刊にでていた。

§ 5.9.2 結 果

上にあげた順序に質問と, その結果を見ていこう。

1° 新聞の種類

あなたは何新聞をよんでいますか？

第 5.9.1 表

	よまない	朝日	毎日	読売	千葉	日経	産経	その他の新聞	その他
両	6.4	30.7	30.5	24.6	12.0	5.7	8.1	5.3	1.3
大	5.3	21.7	25.4	33.9	10.6	7.4	11.6	2.6	1.0
千	4.5	20.5	18.5	48.0	5.0	4.0	7.0	4.5	0.5

これは, 調査票を回収したサンプルに対する % である。併読があるから, 合計は 100% をこえる。

すなわち, ほとんどすべて (95% 位) の世帯では新聞をとつている。しかもどの地区でもいわゆる3大新聞, 朝日・毎日・読売が1, 2, 3位をしめ, この県の有力紙千葉新聞は一段と少ない。3大紙の順序は地区により前後していて, 販売店の勢力というようものがうかがえる。

2° ラジオの放送

最近千葉県の用水事業について, ラジオの放送を聞いたことがありますか？ どういうことをいいましたか？

第 5.9.2 表

	きかない	きいた	その他	計
両	89.9	10.1	0.1	100.0
大	87.8	10.1	2.1	100.0
千	91.5	8.0	0.5	100.0

“きかない” というのは, ラジオなしをふくむ。“きいた” はどの地区も約 10% である。

この放送は, この研究所が考え出して, 各方面の了解と協力を得ておこなわれたものである。しかし決して不自然なものでなく, このような広報活動はよくおこなわれている。そこでこのラジオ放送の効果を見るためにこの放送を聞いたものと, 聞かないもので賦課

金の納入状況と Q 33 [一口でいつて] とについて差があるかどうかしらべてみた。

上にも述べたように, “きいた” ものはわずかに 10% にすぎないので, ここでは各改良区に組合員数のウェイトをつけた合計についてみることにした。

まず納入, 未納別にこの放送を聞いた率をみるとほとんど同じである。また放送を聞いたものの納入率は 46.3% で, 聞かないものの納入率は 45.8% であり, これもほとんど差がない。すなわち, この放送が賦課金の納入をうながしたとは考えられない。

第 5.9.3 表

放送 賦課金	聞かない	聞いた	その他	計	聞かない	聞いた
納入*	91.7	8.0	0.3	100.0	45.8	46.3
未納	90.6	7.5	1.9	100.0	48.3	46.4
その他	90.1	9.9	—	100.0	5.9	7.3
計	91.4	7.9	1.0	100.0	100.0	100.0

* 納入とは全部納入と一部納入をふくむ

つぎに、Q 33 [一口でいつて] をみよう。

第 5.9.4 表

Q33 放送	聞かない	聞いた	その他	計	聞かない	聞いた
全く反対	89.0	11.0	—	100.0	5.5	8.0
まあ反対	95.2	4.8	—	100.0	10.4	6.1
まあ賛成	92.8	5.9	1.3	100.0	49.1	36.7
全く賛成	88.6	10.6	0.8	100.0	35.0	49.2
計	91.2	7.9	0.9	100.0	100.0	100.0

まず Q 33 の方の各カテゴリ別にみると、聞いた率は、用水に対する態度との間に単調な (monotone な) 関係はない。強いていえば、「全く反対」「全く賛成」というような強度の強い (intensive な) 反応のものの方がよく聞いている。

Q 33 を反対、賛成の二つのカテゴリにまとめて、放送を聞いたものと聞かないもの別にながめると、ほとんど差はない。しかし賛成の中を全く賛成とまあ賛成にわけたものとみると、差がありそうである。すなわち、聞いているものの方が賛成でも強度が強い。このことは反対の方でもいえる。いいかえると、上に述べた聞いたものの方が強い強度の意見であるということを書き記している。

3° ビラ

1ヶ月ほど前に飛行機がビラをまきました。ごらんになりましたか？ そのビラはどんなことが書いてありましたか？

第 5.9.5 表

	見ない	見た*	その他	計
両	97.1	2.7	0.2	100.0
大	94.7	5.3	—	100.0
千	97.0	3.0	—	100.0

* 朝日 2人、読売 5人、千葉 1人、
産経 1人、新聞社 2人
その他 3人、わすれた 16人

見たものはたいへん少ない。

4° ポスター

最近、移動動物園のポスターをごらんになりましたか？ どんなポスターでしたか？

第 5.9.6 表

	見ない	見た*	その他	計
両	84.4	15.2	0.4	100.0
大	81.5	18.5	—	100.0
千	79.5	20.5	—	100.0

* 内容をあげたものも
内容をわすれたものもふくむ

これも見たものは少ない。ビラよりはよけいに見ているが、その内容や、宣伝に要した費用を考えないと、にわかにはどちらがよいとは断定できない。

5° 房総沖大地震

この間の大地震で怪しい光（怪光ですね）が出たという話がありますが、あなたは見ましたか？

第 5.9.7 表

	見ない	見た	不明	計
岡	99.2	0.4	0.4	100.0
大	99.0	1.0	—	100.0
千	97.5	2.5	—	100.0

これは見たものが少なすぎて、問題にならない。あるいはデマであつたかもしれないし、デマとしてもその伝わり方はせまかつたのであろう。もつとも新聞の記事であげられている場所と少しはずれていた。

お宅ではあの地震のとき、夜中にすぐラジオのスイッチを入れましたか？

第 5.9.8 表

	入れた	入れない*	その他	計
岡	11.4	87.2	1.4	100.0
大	14.8	84.7	0.5	100.0
千	15.5	84.0	0.5	100.0

* “入れない”の中には“ラジオなし”をふくむ。

これによると、震源池に近いところで、10%あまりがラジオのスイッチを入れたことになる。このような非常の場合、夜間でも臨時放送のあることは余りよく知られていない。またこのときの放送について、あとで評論家が問題にもしていたが、情報の入つたときだけ、ポツ！ポツ！と放送するだけで、ちょうどそのときスイッチを入れたのでなければ、何も放送していないと思ひそのまま切つてしまつたものが多いと思われる。このような場合は臨時に放送することをもう少し広く知らせておくとか、あるいは情報の間をレコードでつなぐなどの処置をすれば、非常事態のときのラジオの効果は大きくなるであろう。

§ 6 結 語

この用水調査は我々が始めに掲げたマス・コミュニケーションの効果の測定の研究としてとり上げたのであつた。現実に動きつつある場の中にあつて、しかも我々の調査以前の状態を詳しく知り得ないで1つの cross section を捉えただけであるから十分な結果を得たとはいえないであろう。しかしながらこの cross section に於ける多相的な現象の対応関係から前述 §5 にのべた如き用水問題の一端を窺ひ得たのであつて、これを手掛りとして更に各種要因の因果関係を追及調査することが必要となるのである。この点について機会に恵まれるならば更に追及調査をくり返したいものと念願している。またこれと同様な case が全国各地に多々あるであろうから、それらとの比較もしてみたいと思つている。

§1 で述べた如く、マス・コミュニケーションの効果のうち繰返しの効果がその大なるものであろうと考えられる。従つてある cross section に於ては効果は現われていなくても、次の cross section では現われているかも知れないのであつて、同時に communiqués の content analysis を綿密に行つて始めて効果との対応がつけられるものといえる。これらはすべて今後に残された問題である。

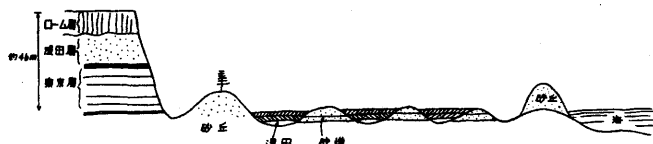
(統計数理研究所)

附録 1. 九十九里方面地誌の概要

九十九里浜について地理的、歴史的研究も多いが、ここでは用水問題に関連して農家がどのような自然環境にあつて生活しているかを知るために必要なことをごく簡単に述べるに止めておく。

九十九里海岸は千葉県の房総半島東北岸の謂で北は銚子から、南は一の宮附近に至る外洋性の砂浜(約70 km)であつて、かつてはこの附近一帯は海底であつたため、地質学的に特異な様相を示している。

海岸線に平行に砂丘帯があり、その間に湿田と桑畑が並んでいるが、その断面は下図のようである。砂丘



といえるものは海岸線に最も近い部分と、台地に最も近い部分だけであつて、他は海底が隆起した砂堆と称するものである。これらの砂堆の上に聚落が発達し、鉄道が敷設され、砂堆と砂堆の間は泥炭と砂の層を成した湿田が連つているのである。従つて湿田地帯は排水が悪く、天水がないときは乾いて了うし、地下水を用いようとする元来が海底であつたために酸性が強くなり、アンモニア、 H_2S 、メタンガスなども含み塩分を含有することもあつて塩害をうけることも多いといわれている。

九十九里浜は地形的には大体3つに分れるようである。栗山川以北、栗山川と作田川に挟まれた地帯、作田川以南である。これらの3地帯は行政的にも北より海上郡、匝瑳郡地域、山武郡地域、長生郡地域に相当している。

簡単な地理的条件は次のようである。

1. 気温 1月4~5°, 7月24~25°
2. 年雨量 1400~1500 mm
3. 風向 9~4月は北風、他は南風。
4. 地質 台地附近は東京層、成田層、ローム層が重なり、海岸地帯は沖積層である。
5. 地形 外洋性砂浜海岸で、海岸線に並列して水田、沼地、集落、畑がある。湿地帯は台地に近く発達し、低平で引水の便が悪く、天水田が多く、乾燥し易い砂地であるから用水は常に不足で、旱害に悩まされ、県第一の反当収量の低い地域である。

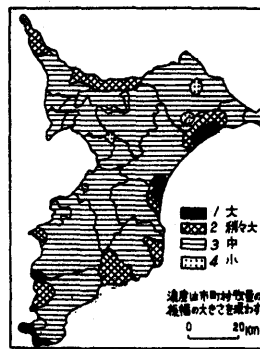
河川は若干距離汀線に平行して流れてから海に入る。片貝より北方では南に曲り、南方では北に折れている。北より、新川、栗山川、水戸川、作田

川、南白亀川、一の宮川が主なるものである。また川は海岸近くになつて末無川となり涵養水を減じている。

6. 水田の状態 (昭和22年)

	水田面積	用水不足田	排水不良田
長生郡	約 9400町歩	約 6000	約 2800
山武郡	12200 "	2200	1100
匝瑳郡	4000 "	3000	1000
海上郡	4000 "	2000	1200

このため海上、匝瑳、山武郡に亘り、大利根用水が作られたのである。



7. 稲作の状態. 長生郡は晩生、中生、山武郡は主に中生で、少し晩生、匝瑳郡は主に早生である。旱害が多いので溜池を作つている。栗山川以北地区、作田川以南地区は収獲の変動が激しいので稲作経済の不安定な地域となつている。そのため品種も耐旱性の強い早生中生を栽培している。

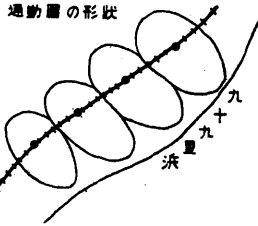
7. 集落の特長. 台地から海岸にかけて岡集落→新田集落→納屋集落の移動が明瞭にみられ、飛地が相当散在している。これは海岸線が300年間に約800m程東に移動したことによつて生じたものである。岡集落、新田集落には農家が多く、漁師は主として納屋集落に住んでいる。

我々の調査との関連性をもつコミュニケーションの状態は次の通りである。

1. 行商圏 佐原、成田、佐倉、千葉、柿ヶ崎方面が多く自転車にて2.5時間位の範囲が行商圏となつている。(最大30 km, 平均20 km位)
2. 輸送圏 大体京浜地方が主である。
3. 通勤圏 鉄道線路が上の若干の駅を中心とし、海岸線・鉄道線路に直角に通勤圏ができています。半径は約10 km, 30~90分の範囲である。(清水馨八郎「九十九里浜平野の自転車交通とその交通圏」地理学評論 Vol. 26, No. 9, 1953.)

清水氏の調査によれば7.6人に1台の自転車をもつ

といわれ、全国平均の9.5人に1台(1951年)に比べて自転車の利用が大きいことが分る。



附録 2. 第1次郵便調査

第1次視察(7月下旬)により、両総用水事業の概略を知り得たので、更にこの事業に対する一般村民の意見・態度及び賦課金に関する問題等を明らかにするため、匝差、山武、長生3郡の1市32町村の市町村長及び小学校長に対して郵便調査を行った。市町村長の返信率は84.8%、小学校長の返信率は90.9%であった。

全体を通観して長生郡が最も積極的な支持山武郡はこれにつき、匝差郡はやや消極的であり、大体受益度に比例して態度が定つているものの如く考えられた。

第1表

関心	1	2	3	計
知識				
1	18	1	1	20
2	5	1		6
3	1	1		2
計	24	3	1	28

第2表

恩恵	1	2	3	計
1	10			10
2	11	1		12
3	2	1		3
4	1		1	2
不明		1		1
計	24	3	1	28

第3表

負担	1	2	3	計
1	7			7
2	9	1		10
3	7	1	1	9
不明	1	1		2
計	24	3	1	28

回答のあつた市・町・村について結果を図示してみると第1~4図に見られる通りである。

また相互の関係は第1~4表から読みとれよう。コードは図の場合と同じである。(詳細は紙数の関係より略す)

第4表

負担	1	2	3	4	不明	計
1	5	2				7
2	3	5	2			10
3	2	4	1	1	1	9
不明		1		1		2
計	10	12	3	2	1	28

附録 3. 千葉県農家の経済状態と用水事業

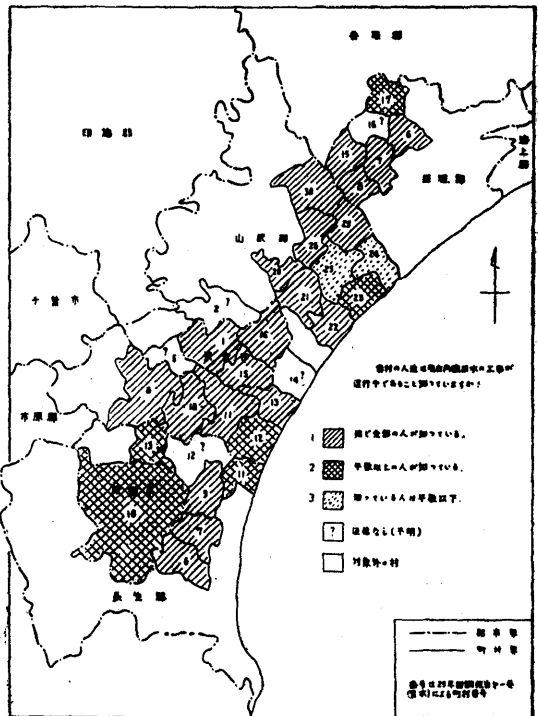
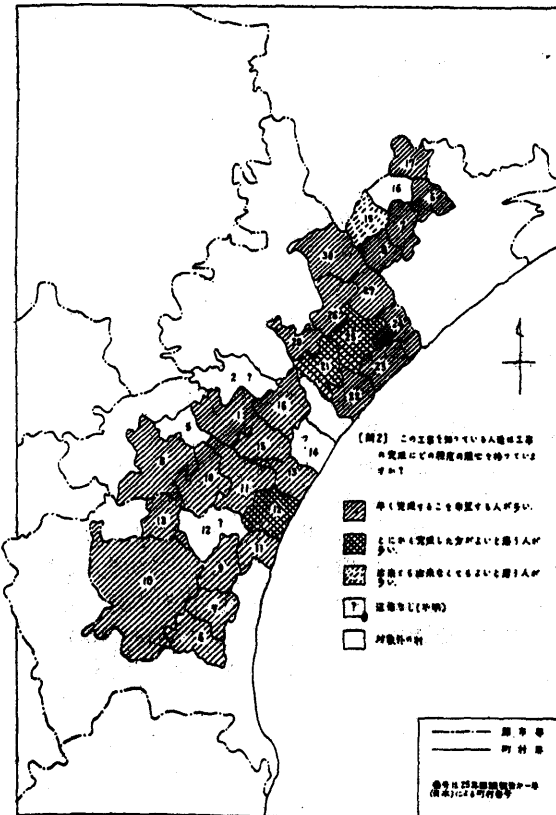
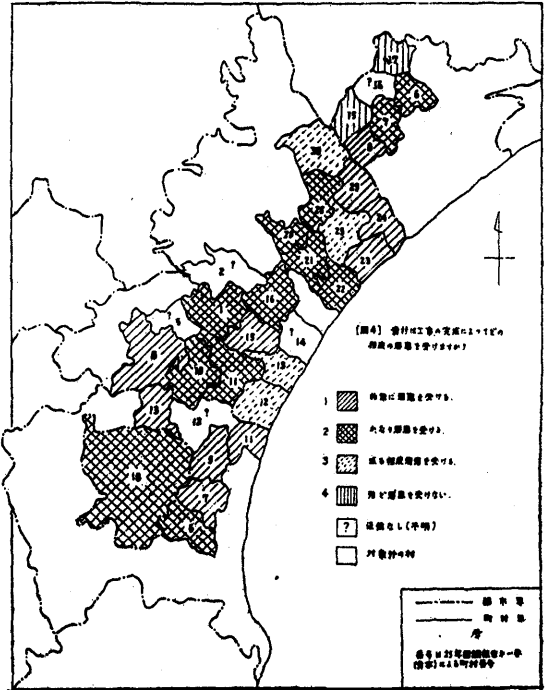
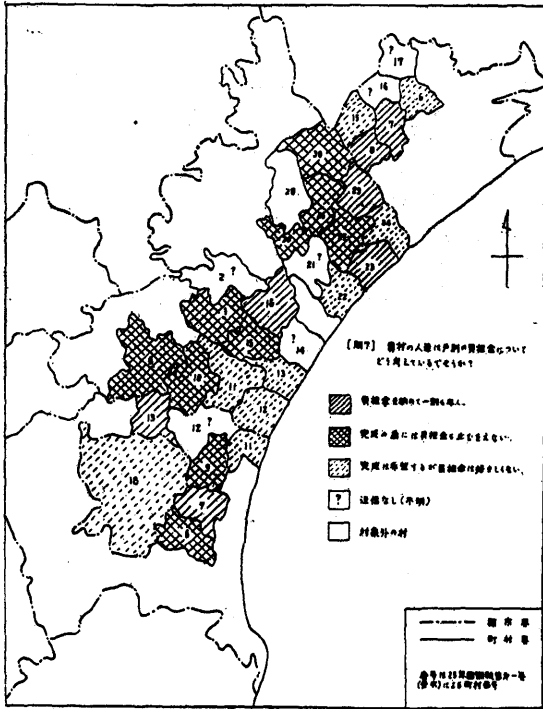
農村の経済、社会構造は複雑である。農家といつても、その経営規模、所有規模等の外延的差異と共に、内包的な経営形態によつて事情は著しく異なり、また専兼業別によつても、その意識と関心は別様である。従つてここでは当該工事施工地域に限り、その歴史的社会的側面を概説してみる。

29年6月8日付の朝日新聞(千葉県版)は、柴田知事談として、町村の各種事業について本年度は地元負担金を納入したもの、または確実に納入の見通しのついたもの以外は着工しないと伝えている。その理由として、本県の各町村の分担金、寄付金の滞納が他県に比べて非常に多いというのである。これは農民の用水に対する無関心を裏付けるものであろうか。農林省千葉統計事務所「千葉県に於ける最近の農業経済の概観昭和29年3月刊」によると76%は農業所得、その約半分、最大の収入源を水田稲作収入に仰いでいる本県の然も単作地帯で用水事業に無関心であるということは考えられ得ないであろう。連年の農家経済余剰をみると、24年は所謂ドッジ不景気により赤字である

第1表 (農林省千葉統計事務所資料)

年度	21年	22	23	24	25	26	27
農家経済余剰(全国平均)	万円 1.4	1.2	1.3	-1.5	3.3	26.898	14.189

が、25、26両年になつて、特需による軍需景気で持直し、27年以降再びシエールの悪化に伴い、余剰の減少を来している。この事情を本県について今少し立入つて調べると、資料は聊か古いが(第2表及び第3表)農地改革後小作地は減少し、自作化したとはいえ、農家の略半数は1町未満の所謂五反百姓である。第4表は収支面よりみた農家経済状況の実態である。



第2表 用水被受益地区小作地面積
(千葉県農地制度史所収千葉県
農地調査資料より加工)

郡	農地改革前小作地		農地改革後残存小作地面積	
	田(%)	畑(%)	田(%)	畑(%)
長生	43.1	34.8	7.1	18.7
山武	44.7	46.2	9.1	6.4
香取	51.5	51.6	9.7	12.4
海上	41.3	39.7	8.7	7.8
匝瑳	36.8	35.6		

第3表 千葉県自小作別農家数 (千葉県農地統計調査表より加工)

	保有限度の貸付地所有農家	自作農	自作兼小作	小作兼自作	小作	土地を耕作せざる農家
22.8.1センサス調	—	30.1	18.1	19.0	32.8	0.0
24.3.1 %	2.5	42.5	39.0	7.9	8.1	0.0

第6表 (農林省千葉統計事務所: 農家便りNo.9)

金融機関別	昭和28年3月現在	昭和27年4月と較べての増減
手持現金	12,781円	1,306円
農協貯金	31,028	4,698
郵便貯金	9,086	2,586
銀行予金	15,997	1,875
その他貯金	2,695	1,387
貸付金	5,777	△ 1,026
無尽講	2,590	1,867
生命保険, 郵年金	10,410	2,941
農協出資	2,905	243
株式投資	4,278	3,109
その他有価証券	918	582
現金, 準備金合計	98,446	19,298

(171戸平均)

第7表 (前掲資料より転載)

金融機関別	預金	貸出	差引 (預金超過)
銀行	1210,368万円	728,065万円	482,303万円
農協	377,426	97,023	280,403
信用組合	132,915	104,714	28,201
無尽会社	199,105	193,437	5,668
郵便局	407,480	—	407,480
漁業協組	7,338	—	7,338
合計	2,344,632	1,123,239	1,221,393

(県統計課調: 昭和26年月平均残高)

註: 信用組合についての数字は矛盾しているので筆者が計算し直した。

収入に対して支出の増加が著しくそれぞれにおいて貸銀等収入及び農外収支等の増加が目立っている。然も家計費に対する農業所得の割合は年々減少し、赤字の増加が著しい。階層別でみると、以上の断層は更に甚しく、黒字経営は、ただ2町以上の経営層に限られる。それとても農家所得に対する家計補償率は112.8パーセントに過ぎぬ。然も本県農家構成では、千葉県農地統計調査表(昭和24年3月1日実施)より算定すると2町以下経営層は略95%を占める。

財産では、土地、建物、農機具、畜力等の主要財産

では、土地、建物、農機具、

畜力等の主要生産要素は凡て

減少し、在庫農産物の増加

は、25%に達する。資産の

合計では増加しているが、そ

の内訳は在庫増と預貯金等準

備金の増加による。在庫増が

経営の健全性を示すものでは

決してないことは勿論であるが、預貯金の増加も第7表に見るように、実は大部分都市に流れて、農家経営資金としては還流されない。

第8表 現金率(各項について現金額の占める割合)
千葉県統計調査事務所経済調査課
(昭和28年7月15日)

	収入総額	支出総額	家計費総額
26年	60.5%	75.6%	50.0%
27年	65.8	72.4	56.0

更に重要なことは、現金率(収支総額中現金収支の占める割合)であつて、商品経済化の進行は必然的にこの比率を増大させるが、収入と支出に見られる差の開きは、前述の絶対額の差を倍増させている。これらは農村の現金涸渇の事実を示すものであろう。

農家の事業家計収支に亘る詳細な資料も存在するが、ここではその詳細に立入ることを差控える。上述のような農家経済上の行詰りの下では兎角賦課金滞納の傾向が生じ易いことは当然であらう。事実賦課金納付状況は大利根地区28年度分41%、過年度分7%、両総地区28年度分50%(29年6月5日付脱売)という停滞ぶりである。この点について引続き同紙の見解を引用しよう。

『大口滞納者側では「これらの工事は大抵農地開放前に着手されたもので、旧地主は地元負担を了承したかも知れないが、土地を開放されたあとのわれわれには関係がない」というのが本当の気持ちらしい。その上

第4表 農家経済収支の総括 (千葉県統計調査事務所経済調査課) (昭和28年7月15日 1戸当平均)

年次	調査戸数	経営面積	家族人員	農業労働日数	収入			支出		農業所得 M=A-D	農外所得 N=B+C-E	農家所得 P=M+N	租公課諸負担 F	家計費 G	農家経済余剰 P-F-G	一人当農家所得	一人当家計費	農家所得による家計補償費 M/G
					農業収入 A	副業収入 B	貸付等収入 C	収入合計 A+B+C	農業支出 D									
昭和24年	133	11.0	6.62	614	26,675	38,136	220,656	40,129	3,989	115,716	60,822	176,538	28,282	162,919	14,663	26,667	24,556	71.1
25	159	11.4	6.60	650	30,471	44,186	279,382	40,779	3,353	163,946	71,304	235,250	24,548	177,604	33,103	35,644	26,910	92.1
26	160	11.1	6.45	543	249,545	29,443	43,120	322,108	54,284	195,261	69,499	264,749	23,528	214,323	26,898	41,046	33,228	90.7
27	171	11.5	6.47	576	288,594	32,894	58,666	380,154	74,426	224,214	86,336	300,504	23,921	262,394	1,4189	46,446	40,555	81.7
前年対比	106.9	103.6	100.3	106.1	115.7	111.5	136.2	118.0	137.0	109.7	124.2	103.6	101.7	122.4	52.8	113.4	122.3	90.1

農家経済収支の総括 (昭和27年度階層別)

階層	戸数	経営面積	家族人員	農業労働日数	農業収入	副業収入	貸付等収入	収入合計	農業支出	農外支出	農業所得	農外所得	農家所得	租公課諸負担	家計費	農家経済余剰	一人当農家所得	一人当家計費	農家所得による家計補償費
5反未満I階層	29	3.2	4.75	248	93,955	24,549	117,747	236,251	34,588	6,237	59,367	136,059	195,426	11,322	185,440	1,336	41,050	38,958	32.0
0.5~1町II	48	7.8	5.71	458	198,663	27,314	65,395	291,372	49,014	3,363	149,649	89,347	238,916	13,387	213,289	12,320	41,839	37,354	70.0
1.0~1.5町III	49	12.3	6.90	639	306,173	38,512	41,968	386,653	77,204	6,297	228,969	74,194	303,153	22,023	273,730	7,400	43,985	39,671	83.6
1.5~2町IV	24	16.9	7.42	724	426,876	41,549	32,518	500,942	115,299	7,175	311,577	66,892	373,469	35,739	325,444	17,286	51,007	43,860	95.7
2町以上V	21	23.0	8.52	835	563,883	34,176	30,545	628,604	134,336	3,345	429,547	61,376	490,923	56,317	382,395	52,211	57,620	44,886	112.3

第5表 農家財産の増減 (昭和27~28年) (農林省千葉統計調査事務所資料)

年次	固定資産				流動資産				負債	資産合計	差引総財産	
	土地	建物	農機具	植物	在庫農産物	在庫用品	現金	貯金等				
昭和27年4月	224,117	332,614	33,880	2,462	46,392	6,533	11,745	67,403	1,136	133,209	9,798	752,132
昭和28年3月	222,558	323,119	32,984	2,533	58,442	4,264	12,781	85,665	1,588	162,740	12,400	770,939
増減額	△ 1,613	△ 4,496	△ 896	121	△ 2,050	△ 2,269	1,036	18,762	452	29,531	2,602	18,807

これらの工事は殆ど地方政治家の政争に利用され恰かもただでできるかのように宣伝して廻る(県農地部談)ことや、今年の不作などが「滞納促進」に拍車をかけていることも見逃せない。更にこのサボタージュは小口面に波及「大口があんなに滞納しているのに少しばかりは……」というわけで、遂に六千万円の滞納ということになったものらしい』

これに関連して次に本県の歴史的背景、特に農地改革の性格と、農民運動の展開を考察することが必要となろう。ここでは余裕もないので千葉県土地制度史の名を引用するにとどめておこう。

調 査 票

註 問の後に〔リスト〕とあるは解答をリストにあげこのリストを示して解答を選択させたものをいう。

文 部 省 統 計 数 理 研 究 所
東 京 都 世 田 谷 区 三 軒 茶 屋 町 10

町 村 番 号

サ ン プ ル 番 号

住 所 番 号

両 総 ・ 大 利 根 調 査 員 名

総 代 ・ 一 般 調 査 員 No.

調 査 月 日 1953 年 12 月 日

	朝食頃	午前	昼食頃	午後	夕食頃	夜
日						
日						
日						

※ さんはおいでになりますか？

1. いる (面接) 2. いない

※ [本人不在のときは] その代りに会合などに出席できる人はどなたですか？

氏名 さん 続柄

〔始めの挨拶の要領〕

「私は文部省の統計数理研究所の調査員としてまいりました。この研究所では、只今 99 里平野で用水について調査をしております。土地改良区の組合員の名簿からクジ引の様な方法でえらんだところ、あなたが当りましたので、今日あなたのところにうかがいました。

この調査は全く学術的な研究をするのが目的ですから、あなたのお名前を出したり、あなたのお答えを他人にもらしたりすることは絶対に致しません。しばらくの間、おじやまでしようが、お願い致します。

問 1. あなたのお生まれはいつですか？

答 明治・大正・昭和 _____ 年

問 2. お宅ではいつ頃からこの土地にすんでいますか？ ずっと農業をおやりですか？

答 _____ 代前からすんでいる

答 _____ から農業をやっている

問 3. あなたは役員とか委員とか代表のようなことをしていますか、以前はどうですか？

答 1. したことがない (過去、現在とも)

答 2. ある

機 関 名	役 名

問 4. 家族の方はどうですか？

答 1. 誰もいない

答 2. ある

続 柄	機 関 名	役 名

問 5. お宅には何人おいでですか？

お宅では農業以外の職業をしていますか？

答 家族人数 人

続 柄	職 業

問 6. お宅では農業をやつてゆくうえで、つぎのうち大切だと思ふ順序におつしやつてください？

〔リスト〕

- イ カンガイ用水を引くこと
- ロ 肥料を十分に入れること
- ハ 土壌を改良すること
- ニ 農具を機械化すること
- ホ 品種を改良すること
- ヘ 病害虫を防ぐこと

問 7. ここにあげていることより大切なことがありますか？ それはなんですか？

答 1. ない

答 2. ある

要点

問 8. あなたのお宅ではカンバツにあつたことがありますか？

それはいつですか？

どの位の減産でしたか？

答 1. カンバツはなかつた

答 2.

あ つ た	時	減 産 量
	年	割減産

問 9. お宅では今、カンガイ用水はどうしていらつしやいますか？

答 要点

問10. それでいつも十分でしたか？

- 答 1. いつも十分、こまつたことなし
- 答 2. 大てい十分、どうやらまにあつている
こまつたときもあつた
- 答 3. こまるときがしばしばある
- 答 4. いつもこまつている

問11. この辺では用水問題について、イザコザがおこつたことはありませんか？

どんなことですか？

- 答 1. ない
- 答 2. ある

どんなこと要点

〔両総〕問12. 遠くから水を引いてきたのでは、その費用も大変ですし、毎年それを維持してゆく労力も大変だと思いますが、それまでしても水を引く必要があるでしょうか？

- 答 1. 必要がある
- 答 2. 必要はない

問13. 水を引いて来るのが遠くからだ、途中の村が水をとつてしまうというようなことが起らないでしょうか？

- 答 1. 起らない
- 答 2. 起る

問14. よそから水を引いて来ても、水を村の中で、うまく分けあうことができるでしょうか？

- 答 1. うまく分けあうことができる
- 答 2. うまく分けあえない

問15. お宅では田ンボで2毛作をやつていますか？

裏作は何をつくつていますか？

- 答 1. 大部分やつている
- 答 2. 半分位やつている
- 答 3. 一部分やつている
- 答 4. 全くやつていない

裏作

〔前置として〕こんどは〔両総〕大利根用水についていろいろおたずねしたいと思います。

〔大利根〕問16. a) 大利根用水の事業が始まつた頃、この事業がうまく行くと思ひましたか？

- 答 1. うまく行くと思つた
- 答 2. うまく行くかどうか心配だつた
- 答 3. うまく行かないだろうと思つた

〔大利根〕b) その頃、ぜひともやつてもらいたいと思ひましたか？

- 答 1. やつてもらいたいと思つた
- 答 2. なんとも思わなかつた
- 答 3. やつてもらいたくないと思つた

〔両総〕問17. この村へ両総用水の水がくるのは、いつ頃になるでしょうか？

答 _____ 頃

問18. a) この用水の水はどこかの川の水をとり入れるのでしょうか？〔栗山川・新川・etc. といつたら、用水の全体としてはどこの水ですか？〕

答 1. 利根川

答 2.

答 3. 知らない

b) それではその水をとり入れる場所はどこですか？

答 1. 佐原(市) 笹川

答 2.

答 3. 知らない

c) また、この用水でどの位の範囲をかんがいするのででしょうか？

答

問19. [a] は欠問]

b) この用水の水が来るようになったら、この辺では米は反当何割位の増収になると思ひますか？

それでは(この辺では)農地はどのくらいふえるでしょうか？

答 _____ 割位増収 _____ 町 _____ 反位ふえる

c) それでは二毛作ができるようになると思ひますか？

答 1. できない → d_1

答 2. できる ⇒ $d_1 e_2$

→ d_1) なぜ二毛作はできないと思ひますか？

答

⇒ d_2) それではお宅では裏作に何をつくりま

答

⇒ e_2) 用水の完成によつて, 米の増産と二毛作ができるようになるといわれていますが, あなたはどちらが大切だと思いますか?

- 答 1. 米の増産の方
- 答 2. 二毛作の方

問20. a) ここには大利根用水の水はもう来ていますか?

- 答 1. 来ている → b_1
- 答 2. まだ来ていない → b_2

→ b_1) それでは, 用水が来てからこの辺では米は反当何割位増収になりましたか?

それではこの辺では農地はどのくらいふえるでしょうか?

答 _____ 割位増収 _____ 町 _____ 反位ふえる

→ c_1) お宅では用水ができたので二毛作をするようになりましたか?

- 答 1. 昔から二毛作だつた → d_{11} , [e_1 トバシ]
- 答 2. できてから二毛作にした → d_{12} , e_1
- 答 3. 今でも単作 → [d_{13} , e_1 トバシ]

→ e_1) 用水の完成による米の増産と二毛作ができるようになったことと, あなたはどちらが大切だと思ひますか?

- 答 1. 米の増産の方
- 答 2. 二毛作の方
- 答 3. わからない

⇒ b_2) この用水に水が来るようになったら, この辺では米は反当何割位の増収になると思ひますか?

それでは (この辺では) 農地はどの位ふえるでしょうか?

答 _____ 割位増収 _____ 町 _____ 反位ふえる

⇒ e_2) それでは二毛作ができるようになると思ひますか?

- 答 1. できない → d_{21}
- 答 2. できる → d_{22} , e_{22}

⇒ d_{21}) なぜ二毛作はできないと思ひますか?

答

⇒ d_{22}) それではお宅では裏作に何をつくりませんか?

答

⇒ e_{22}) 用水の完成によつて, 米の増産と二毛作ができるようになるといわれていますがあなたはどちらが大切だと思いますか?

- 答 1. 米の増産の方
- 答 2. 二毛作の方
- 答 3. わからない

〔両総〕問21. 「この辺では水さえあれば収穫が上がる」という人がありますが, あとはいまのままで, ほんとに水さえあれば収穫はふえるでしょうか?

- 答 1. ふえる, 賛成
- 答 2. そうはいえない, 水だけではふえない.
- 答 3. その他 (要点)

問22. この用水の工事を始めた時, あなたは土地改良区の設立申請書に同意の署名をなさいましたか?

- 答 1. 署名した
- 答 2. 署名しない
- 答 3. わすれた

問23. a) あなたの村は他の村にくらべて〔両総〕大利根用水に対して熱心な方だと思いますか, それとも余り熱心な方ではないと思ひますか?

- 答 1. 熱心な方 → b
- 答 2. 普通
- 答 3. 不熱心な方 → b
- 答 4. わからない

→ b) 他村より〔熱心〕〔不熱心〕なのはどんな点ですか?

答

問24. a) この村で, 〔両総〕大利根用水に非常に熱心な人は誰ですか, 又非常に反対している人は誰ですか?

- 答 1. 熱心な人 (賛成)
- 答 2. 反対の人
- 答 3. どちらとも知らない

b) 他の町や村でそんな人を御存知でしたら, おつしやつてください? [村名まできけ]

- 答 1. 熱心な人 (賛成)
- 答 2. 反対の人
- 答 3. どちらもしらない

問25. a) 用水工事について, お宅に割当てられるお金がありますか?

答 1. ある → b, c

答 2. ない → [b, c トバン]

→ b) [両総] 今年の分はいくら位ですか？

[大利根] 今年の第二期分はいくら位ですか？

答

--

 円位

→ c) それだけ出すのは、大したことはありませんか？

答 1. 大したことだ、つらい

答 2. この位ならどうにかなる

答 3. 安いものだ

答 4. その他 (要点)

問26. あなたはつぎの意見のどちらに近いですか？

[リスト]

答 1. (イ) 人が払わないのなら…払わない

答 2. (ロ) 人はどうでも……払う

[両総] 問27. あなたは、つぎの意見のどちらに近いですか？ [リスト]

答 1. (イ) それだけの利益があるから、金を払え

答 2. (ロ) それだけの利益はない

[両総] 問28. あなたはこの工事についてつぎの意見のどちらに近いですか？ [リスト]

答 1. (イ) 高くても、早く

答 2. (ロ) おそくとも、安く

答 3. (ハ) いまのまま

答 4. (ニ) やめてしまえ

[大利根] 問29. 幹線水路は完成しましたが、まだこれから先きも工事費や維持費等のため、長い間お金をかさねなければならぬと思います。それでもこの事業はよかつたと思いませんか？

答 1. よかつた

答 2. よかつたこともあるが、こまつたこともある

答 3. こまることが多い

問30. a) {両総} {大利根} 用水についての話を、どこからききますか？

それはどんなことについてですか？

答

どこから	どんな話

b) あなたは {両総} {大利根} 用水についての集まりに出たことがありますか？

何回位出ましたか？

答 1. 出たことない

答 2. _____ 回位出た

c) [両総] 大利根用水についての講演や見学などについての催しに出たことがありますか？ どう思いましたか？

答 1. 出たことはない

答 2. 出た

思ったこと

[大利根] 問31. 今始まつている両総用水もこの大利根用水とにている事業ですが、うまくゆくと思えますか？

答 1. 両総用水を知らない

答 2. うまくゆかないだろう

答 3. うまくゆくだろう

答 4. どうなるか分らない

[大利根] 問32. 始めに大利根用水の事業について聞かされた事と、実際に事が進んでみて違つた点がありますか？

それはどういう事ですか？

そのことについてどう思いますか？

答 1. 違つた点なし、大体同じ

答 2. 違つた点がある

どういふこと、どう思ふの要点

問33. いろいろな事情を考へて、一口でいへば、

{両総} {大利根} 用水の事業に賛成ですか、反対ですか？

答 1. 全く反対

答 2. まあ反対

答 3. まあ賛成

答 4. 全く賛成

問34. お宅では皆さん、あなたと同じ意見ですか？

ちがうのはどなた (続柄をきく) ですか？

その方はどういう意見ですか？

答 1. 皆同じ

答 2. ちがうものがある

続柄	意見の要点

問35. 今の改良区の総代の中には、あなたの意見を代表している人がいますか？

答 1. ある 2. ない

問36. 総代は主にどういふ人がなつていますか？

答

問37. お宅では別の村にも土地をもっていますか?

- 答 1. もっていない
- 答 2. もっている

町村名

問38. いまお宅では、借入地(小作地)はありますか?

- 答 1. なし
- 答 2. ある

町村名	田		畑	
	町	反	町	反
この町村内				

問39. お宅は農地改革前は、つぎのどれに当たりますか? [リスト]

- 答 1. (イ) 小作
- 答 2. (ロ) 小作兼自作
- 答 3. (ハ) 自作兼小作
- 答 4. (ニ) 自作
- 答 5. (ホ) 地主農家
- 答 6. (ヘ) 耕作していなかつた

問40. お宅ではいつ頃から化学肥料をお使いになりましたか?

- 答 1 明治から 2 大正から
- 3 昭和__年から

問41. お宅でつぎのようなものからの収入がありますか? [リスト]

- 答 1 野菜 2 豆類 3 いも類
- 4 果物(西瓜を含む) 5 落花生
- 6 養蚕 7 養鶏 8 畜産及び加工

問42. お宅では電気はメーター制ですか、定額制ですか?

- 答 1. ない
- 答 2. メーター制
- 答 3. 定額制__灯

問43. お宅ではつぎのものをお使いになりますか? [リスト]

それはお宅のものですか、借りるのですか?
答

	使わない	使 用			
		自家所有	共有	借用	賃料
リヤカー・大八車					
手動噴霧器					
動力噴霧器					
畜力					
動力脱穀機					
オート三輪					
自動耕耘機					

[○印をつけよ]

問44. つぎのうちお宅にはどれがありますか? [リスト]

	あり	なし	こわれていてつかえない
フ ロ			
写 真 機			
冷 蔵 庫			
時 計			
ラ ジ オ			
電 話			
ミ シ ン			
楽 器			
オートバイ モーターバイク			
自 転 車			

[○をつけよ]

問45. お宅ではこれからあとも、誰か一人は代々農業をやつてゆくべきだと思いますか?

- 答 1. ゆくべきだ
- 答 2. その他(要点)

問46. あなたは学校はどこまでおいでになりましたか?

- 答1. 学歴なし 2. 小学校中退 3. 小学校卒業
- 4. 高等小学 5. 新制中学 6. 旧制中学
- 7. 新制高校 8. 旧制高専 9. 大学
- 10. その他_____

問47. あなたは何党を支持していらつしやいますか?

- 答1. 自由党 2. 分(鳩)自由党, 日本自由党
- 3. 改進黨 4. 左社 5. 右社 6. (どうしても)ただの社会党
- 7. 労農党 8. 共産党
- 9. その他の政党_____ 10. 支持政党なし

問48. a) あなたは何新聞をよんでいますか?

- 答1. よまない 2. 朝日 3. 毎日 4. 読売
- 5. 千葉 6. 日経 7. 産経 8. その他_____

b) あなたはラジオのニュースをききますか?

一番よく聞くのは何放送ですか？

答1.きかない 2.NKH第一 3.NHK第二
4.ラジオ東京(JOKR) 5.日本文化(N
CB, JOQR) 6.その他

c) 最近、千葉県の用水事業について、ラジオの
放送を聞いたことがありますか？

どういことをいいましたか？

答 1. ない

答 2. ある

内容

d) 1ヶ月程前に飛行機がビラをまきましたが、
ごらんになりましたか？

そのビラはどんなことが書いてありました
か？

答 1. 見ない

答 2. 見た

内容

e) 最近、移動動物園のポスターをごらんになり
ましたか？

どんなポスターでしたか？

答 1. 見ない

答 2. 見た

内容

問49. テレビジョンがうつっているのを見たことがあ
りますか？

それはどこですか？

答 1. 見たことがない

答 2. _____で見た

問50. a) この間の大地震で怪しい光(怪光ですね)が
出たという話がありますが、あなたは見まし
たか？

どんな光でしたか？

答 1. 見ない

答 2. 見た

光

b) お宅ではあの地震のとき、夜中にすぐにラジ
オのスイッチを入れましたか？

答 1. 入れた、聞いた

答 2. 入れなかつた、聞かなかつた

問51.「日本の復興の為には、すぐれた政治家が出てき
たら、国民がたがいに議論をたたかわせるより
は、その人にまかせた方がよい」という意見が
ありますが、あなたはこれに賛成ですか、それ
とも反対ですか？

答 1. 賛成(まかせる)

答 2. 時、人による

答 3. 反対(まかせきりはいけない)

答 4. そんなにすぐれた人が出るとは考えら
れない

答 5. その他(要点)

問52. かりにこの村の家を上流、中流、下流にわけ
るとしたら、お宅はどれに属すると思えますか？

[中流と答えたら] 中流のうち中流の上、中流
の中、中流の下に分ければそのうちのどれでし
ようか？

答1.上流 2.中流の上 3.中流の中

4.中流の下 5.下流

[調査員が判断すること：質問してはいけない。]
この村内でこの家はつぎのどれと思うか？

答 1.上流 2.中流の上 3.中流の中

4.中流の下 5.下流

問53. あなたは現在総代ですか？

それはいつ {からですか } ?
{まででしたか} ?

答 1. 昭和_____年から総代になり、今も
総代

答 2. 昭和_____年まで総代だつたが今は
ちがう

問54. 一般組合員は土地改良区の主旨をよく理解して
いると思えますか？

答 1. よく理解している

答 2. ある程度しか理解していない

答 3. ほとんど理解していない

問55. 一般組合員と、総代とが話合うことはよくあり
ますか？

答 1. よくある

答 2. たまにはある

答 3. あまりない

答 4. 全くない

問56. 総代としてのあなたに、この用水についてとく
に熱心にいつてくる人とか、とくに強い不満を
いつてくる人がいますか？

それはどういうことですか？

答	氏名	点
熱心		
不満		

問57. 総代として一般組合員の賦課金の納入について
は何か苦勞されたことがありますか？

それはどういうことですか？

そのときどうなさいましたか？

答 1. 苦労したことはない

答 2. 苦労したことがある

どういう点で	どう対処した

問58. これまでに総代会でとりあげた議案の中でもつとも重要であつたと思われるものはどんなものでしたか?

その議決に対する貴方の御意見はどうですか? どうしてそうお考えですか?

答

(議案)
(意見)
(理由)

問59. あなたは、一般組合員の意見と、総代会の意見との板ばさみになつて、こまることがありますか?

- 答 1. そういうことはない
- 答 2. ときにはある
- 答 3. よくある

問60. 現在総代会で指導的な役割をしているのは誰ですか? その人はとくにどういう点に熱心ですか?

答

人 名	熱 心 な 点

問61. あなたの意見は総代会での決議や審議にあつて、現在では破れることと、勝つこととどちらが多いでしょうか?

- 答 1. 破れることが多い
- 答 2. 半々位だ
- 答 3. 勝つことが多い

問62. 総代の多くの人達は、総代会で議決するとき、つぎのうちの何を一番先きに考えると思いますか? [リスト]

- 答 1. 村の有力者の意見
- 答 2. 改良区の理事会の意向
- 答 3. 一般組合員の意見
- 答 4. 人からどう思われるかということ
- 答 5. この事業の意義

問63. 理事の選出方法はうまくいつていると思いますか、それともうまくいつていないと思いますか?

それはどんな点ですか?

- 答 1. (大体) うまくいつている

答 2. まずい点がある

まずい点

問64. 理事会のやり方についてどう思いますか?

どんなことですか?

- 答 1. (大体) よい
- 答 2. まずい点がある

まずい点

問65. 総代として、今までうかがつたこと以外に何か御意見がありますか、あつたらうかがいたいと思います。

--

文 献

- [1] 青野寿郎：九十九里浜海岸平野における集落の移動，地理学評論，第7巻，第1号，昭和6.1
- [2] ————：九十九里浜の漁村における二三の地理学的現象，地理学評論，第8巻，第9,10号，昭和7.9,10
- [3] ————：九十九里浜における水産業の地理学的研究，地学雑誌，昭7.11，8.1
- [4] 石渡貞雄：農地改革の基本構造（54年2月刊 東大3.6版）
- [5] 井上晴丸：農業問題入門（51年刊）
- [6] 今西錦司：村と人間
- [7] 上原信博：改革後の農地移動に関する一考察（農林統計調査）
- [8] 大内 力：日本資本主義の農業問題（東大3.6版）
- [9] 河合悦三：農村の生活（52年10月刊 岩波新書）
- [10] 川上正道：農民経済の動態分析（経済評論 51年2月）
- [11] 川上正道：統計的資料よりみたる農村分解の進行と特徴（経済評論 25年4月）
- [12] 菊池利夫：沼沢地開発の新田に行われた割替制度，地理学評論，第38巻，第12号，昭25.12
- [13] ————：砂丘地帯における新田開発，地理学評論，第24巻，第4号，昭和26.4
- [14] グゼヴァートイ：日本の戦後「農地改革」と農業の衰退，経済評論 54年4月
- [15] 慶大社会科学部：日本に於ける沿岸及び沖合漁業の保全に関する調査
- [16] 近藤康男：農村統計の諸問題（50年3月刊 農林統計協会）
- [17] 近藤康男：貧しさからの解放（中央公論 昭和29年9月）
- [18] 近藤康男：日本農業の統計的分析
- [19] 清水馨八郎：房総の自然誌，古今書院 昭和27.8
- [20] 清水馨八郎：九十九里浜平野の自転車交通とその交通圏，地理学評論，第26巻，第9号，昭和28
- [21] 鈴木栄太郎・喜多野清一：農村社会調査
- [22] 滝川 勉：戦後世界農業恐慌の諸問題 経済評論（54年11月）
- [23] 千葉県統計年鑑，昭和27年
- [24] 千葉県農地制度史 下巻，千葉県農地制度史刊行会
- [25] 農家経済調査報告，農林省
- [26] 農業復興会議：農村の実態（上，下）
- [27] 季刊農業経済研究
- [28] 農地改革記録委員会編：農地改革順末概要
- [29] 農林水産統計，農林省統計調査部編
- [30] 福武 直：日本農村の社会的性格
- [31] 松井 健：表層地質と土壌生成との関係について（第2報）—九十九里沿岸平野の例— 資源科学研究所彙報，第27号，昭和27.9
- [32] 谷津栄寿・高持長康：千葉県樟海干潟地の地下水及地表水について，資源科学研究所彙報，昭和26.8
- [33] 米山桂三：漁村の人口問題，法学研究，慶大法学研究会，昭和28.6.15

資 料

農林省千葉統計事務所諸資料